

# Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局  
東部教育局  
〒680-0846  
鳥取市扇町21番地  
東教発 H28. 1. 4 No.135  
http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/

## 夢・目標とセルフマネジメント

局長 杉本 仁詞

あけましておめでとうございます。初日の出を仰ぎながら、「日本のこころの教育」（境野勝悟著、致知出版社）という本の次のような言葉を思い出しました。「わたしたちの命の元は太陽です。日本の『日』は太陽のことで、『日本』は太陽を本（元）にしているという意味です。ですから、太陽のように丸く、明るく、豊かに、元気に生きるのが日本人です。」今年も日本人らしく生きたいと思ったところです。

初詣に行かれ、今年の新たな誓いを立てられた方も多いと思いますが、教職員としての夢や目標についてはいかがでしょうか。どのような教職員人生を送るかということの思い描くことから、よりよいキャリアデザインが始まります。そして、どのような専門性を身につけるかなどの目標を持つことで、具体的な研修の機会が見えてくるはずです。

ある研修会で、次のような話を聴きました。「原因（行ってきたこと）があって結果がある、その積み重ねで今の貴方の状況がある。今の状況をよりよくするためにはどうしたらよいか。明確な夢・目標を持つことだ。そうすると原因の質が変わり、結果も変わってくる。」

セルフマネジメントの最も重要な要素は、「決意する」ことだそうです。明確な夢・目標を持ち（決意し）、そのために継続して行っていくことを決意することは、セルフマネジメントを機能させ、自分を創っていくことになると考えます。

昨年も、研究大会、校内授業研究会等、たくさんの学校を訪問して授業を観させていただき、子どもたちの成長に大変感激しました。その成長は、本人の努力、家族の支え、そして、教職員の実践の積み重ねによるものだと思います。また、その教職員の実践の原動力となっているのは、このような子どもに育てたいという思い（目標）ではないでしょうか。子どもの成長した姿や自分自身の将来像を描きながら、専門性を高めてキャリアアップしようという使命感を持って、日々の教育活動に向かっていきたいものです。

## 子どもの心に響く道徳の授業づくり

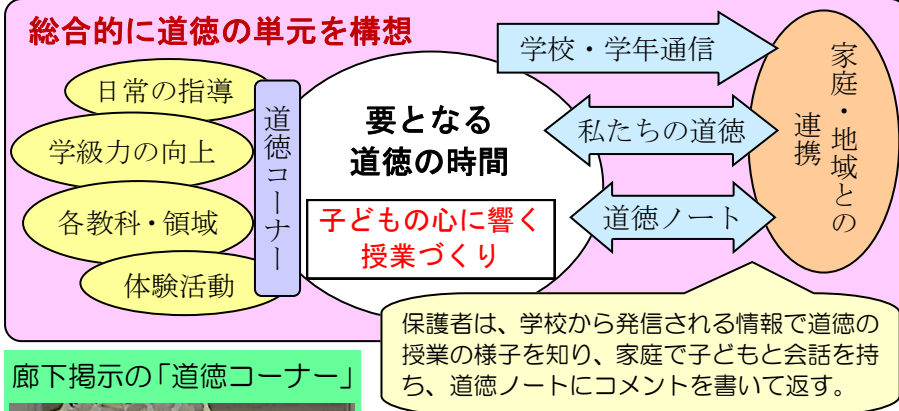
～行動化できる子どもの育成をめざして～

鳥取市立宮ノ下小学校



宮ノ下小学校は、行動化できる（よりよく生きる）子どもたちの育成をめざし、心に響く道徳の授業づくりを進めています。そのために、総合的に道徳の単元を構想しています。

### 総合的に道徳の単元を構想



### 「心に響く」とは

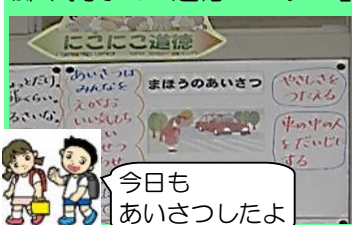
- 資料の登場人物の生き方に触れ、その生き方に感動する
- より深い考え方や価値に触れる
- 「自分だったら」と自分の生活と重ね合わせて考える

### そのために

- ◇資料選択・自作資料づくり
- ◇発問の工夫
- ◇授業展開の工夫

☆総合的に道徳の単元を構想

### 廊下掲示の「道徳コーナー」

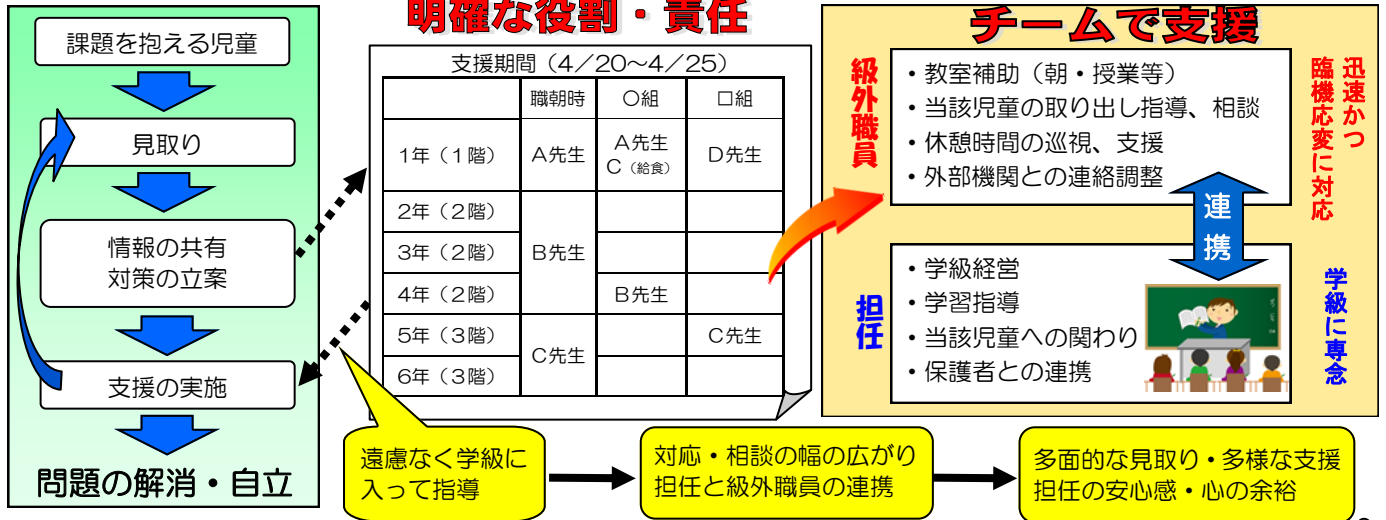


総合的に道徳の単元を構想することは、道徳教育の要である道徳の時間を充実させると共に、道徳の時間以外の様々な道徳教育の取組の充実にもつながり、学校教育全体を通じて道徳教育の好循環を生み出します。これが、宮ノ下小学校の宝となっています。

不適応対策の  
実践例に学ぶ

# 級外全員で学級を支える支援チーム

近年、不適応問題への組織対応があらためて重視されています。しかし、組織がうまく機能せず、特に小学校において、担任が問題を抱え込んでしまい、判断の誤りや対応の遅れにつながるケースが見られます。そのような中、級外職員（担任以外の教職員）全員で子どもたちや担任を支える「学級支援チーム」を立ち上げ、機能する組織づくりを進めている小学校があります。その取組を紹介します。



生徒指導において、級外職員は重要な役割を担っています。担任とは違う角度から子どもを理解し、より広い視点で学校全体を見ることが出来ます。管理職のリーダーシップのもと、担任・級外職員が役割を明確にして、チームとして子どもたちに向き合っていくことが、子どもたちへの多様な支援、さらには担任の安心感や心の余裕にもつながっていきます。

## 社会教育 コーナー



## ネットとのつき合い方を考えよう

～「インターネットの利用に関するアンケート」の結果より～

9月に鳥取県内で行われた標記アンケート（鳥取県教育委員会事務局社会教育課 実施）の結果が先日報告されました。小中学生のインターネット（以下、ネット）利用率は小6が80.9%、中2が86.2%と高い傾向が見られます。ネットとのつき合い方について学校でも考えさせていくことがますます重要となっています。

**ネットにつながる機器**

ほとんどの機器がWi-Fi（無線LAN）環境下でのネット接続が可能です。

スマートフォン 携帯電話

タブレット 携帯ゲーム機 携帯音楽プレイヤー

据え置き型ゲーム機 パソコン

**朝・帰りの会など、学級でできること**

- 子どもたちが学校以外でどのような機器を利用してネットとつながっているかをアンケート等で把握する。
- ネットのトラブルについても事例（下記アドレス<総務省HP>参照）を挙げて、相談することの大切さを伝える。  
鳥取県内で起きているトラブル例（アンケートより）  
<知らない人からの連絡><不正・架空請求>  
<睡眠不足><スマホが手放せない><人間関係>など  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/kyouiku\\_joho-ka/jireishu.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html)
- 家庭等での時間の使い方を振り返らせ、ネットの利用の仕方を見直させ、自分で自分をコントロールすることの大切さを伝える。

**こんな情報も…**

- 県内では1割未満ですが、有害サイトからの不正・架空請求等に巻き込まれている子どもたちがいます。
- 請求を受けても慌てて業者に連絡をしたり、お金を支払ったりしてはいけません。後日、見知らぬ人からの電話で責め立てられても、応じる必要はありません。
- フィルタリングの利用や機能制限の設定で子どもを被害から守ることができます。

ネットとより良いつき合い方をするためには、1日の利用時間の見直しを図ったり、困り事や不安を解消する方法を各自が身に付けたりすることが大切です。その上で教師がすべきことは、子どもたちのネット利用に関心を持ち、「今の使い方本当に良いのか」と子どもたちに問いかけ続けることです。



学級等での話し合いの際に、リーフレットの活用は大変有効です。ぜひ、ご利用ください。